

【様式】

令和元年度 学校マネジメントシート

学校名 (久居農林高等学校)

1 目指す姿

| | | |
|------------|---------------|--|
| (1) 目指す学校像 | | 少人数教育を生かし、地域に根ざした専門高校を目指します ・「農業」「家庭」の専門性を生かし、地域社会を担う将来のスペシャリストを育成します ・「生物」「環境」「生活」の情報発信基地として、地域に貢献します |
| | | 一人ひとりが主体となって活動し、社会貢献に意欲的に取り組み、自己の成長を実感しながら、将来の地域を担いかつ地域のリーダーとなる意欲を持った生徒 |
| (2) | 育みたい 児童生徒像 | 一人ひとりが主体となって活動し、社会貢献に意欲的に取り組み、自己の成長を実感しながら、将来の地域を担いかつ地域のリーダーとなる意欲を持った生徒 |
| | ありたい 教職員像 | 各担当教科の専門性を高めるとともに、授業形態や授業内容等の工夫・改善を行い生徒の成長に喜びを感じ、充実感を持って業務に取り組む教職員 |

2 現状認識

| | | |
|-----------------------------|---|---|
| (1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | ○生徒 わかりやすい授業、安心安全で楽しく過ごせる学校、自己の存在が実感できる学校、進路希望の実現 ○保護者 子どもを成長させてくれる信頼できる学校、進路希望の実現、職業観・勤労観および基本的な生活マナーの定着 ○地域住民 地域に開かれた学校、地域を担いかつリードする人材を育てる学校 基本的な生活マナーの定着 | |
| | 連携する相手からの要望・期待 ○保護者 学力定着、進路希望実現、卒業後のケア 生徒が安心・安全に学べる環境 ○地域住民・産業界 教育資源の活用、知識や技能・意欲を持った生徒の育成、基礎学力 ○近隣保・幼・小・中・高校等 教育資源の活用、連携の強化 | 連携する相手への要望・期待 ○保護者 生活指導等への理解と協力、学校行事への参加、生徒の基本的な生活習慣の確立 ○地域住民・産業界 教育方針等の理解、学校経営への協力と参画 ○近隣保・幼・小・中・高校等 教育方針等の理解と協力、連携事業の強化 |
| (2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | | |

(3) 前年度の学校
関係者評価等

○学習指導の充実

「わくわく農林塾」は、地域と学校が一体となり、久居農林高校の強みを活かし、地域の教育を担いつつ、生徒の主体的な学びを引き出し、学校の活性化にも資する優れた取り組みである。この取り組みを通して、87.4%もの生徒が「成長できた」と回答している。今後は、可能な限り、幼稚園・小学校との連携に留まっているこの取り組みを、中学校まで拡大させることが望まれる。

「授業が分かりやすい」と回答した生徒は、76.1%であり、高い数値を示している。少人数クラス編成や、基礎力診断テストをもとにした学力保障の取組が充実している。この一方で、23.9%の生徒が、「授業が分かりやすい」と回答していない現状もある。基礎学力の向上のための重要視点を、スローラーナーの学びの向上におき、一層取り組んでもらいたい。

○キャリア教育の充実

進路指導部から提供される「キャリア教育プログラム」は、詳細な教育ロードマップとして機能しており、進路ガイダンスやインターンシップ、現場見学会、出前授業、講演会、面接・履歴書指導などの取組が充実している。

就職内定率も100%であり、景気の後押しがあるものの、就職希望生徒の多くを地元の優良企業に就職させることが出来ている。卒業後も、職場定着をサポートするなど、きめ細かい指導がなされている。次年度以降も、取り組みを継続してもらいたい。

○生徒指導の充実

生徒指導部が中心となり、規則正しい生活習慣の確立のため、生徒への身だしなみ指導や遅刻指導に力が注がれている。これは生活指導に留まらず、生徒一人一人の生きる力の涵養を図っている姿でもある。厳しく指導するだけでなく、教員が生徒にきめ細かい声掛けを行い、生徒は、ルールや時間を守ることが、自らの成長につながることを理解している。さらに、家庭との連携や進路指導の側面からも生徒を支援し、取り組みを継続してもらいたい。

○保健管理の充実

保健部が中心となり、年間1500件を超える保健室来室生徒の対応、カウンセリングや発達障害支援、性教育などを充実させている。次年度以降も、取り組みを継続してもらいたい。

○学校生活アンケート

学校生活アンケートでは、上級学年ほど「安心」「目標をもった学習・活動」「総合満足度」が高くなる傾向が見られ、好ましい。しかし、三重県教育ビジョンにおける数値目標には、各項目とも10ポイントほどの差が見られ、この点においては課題が残る。なお、入学時からの3年間の経年変化が見えるアンケートを実施する方がよい。

○学校運営

教員の資質向上のための研修会が充実し、分掌や学年がチームワークを持った連携が行われている。ホームページにも充実し、情報発信に努めている。

久居農林高校を志願する中学校生徒数は、概ね良好であるが、生徒が急減する近い将来に向けて、具体的な対策を講じていく必要がある。

一部で過重労働がある職員も見受けられ、多忙化を解消する取り組みが必要である。

| | | |
|-----------|-------|---|
| (4) 現状と課題 | 教育活動 | <p>○生徒が主体となった地域貢献活動 各コースがそれぞれの特色を活かした「わくわく農林塾」の活動はマスコミにたびたび取り上げられていることにより、本校の教育活動に対する地域の理解が広がりつつある。また、生徒は自分達の活動が目に見える形で評価されたことで自信を持ち、意欲的に取り組むようになってきている。「農業」「家庭」のもつ魅力や学習内容をさらに浸透させていく必要がある。</p> <p>○勤労観・職業観の確立 「インターンシップ」「卒業生に聞く会」「緑風デー」などの取り組みを進めると共に、進路指導部、担任、学科、コースが連携し、きめ細かな進路指導を行った結果、就職内定100%を継続して達成している。また、進学においても三重大学生物資源学部に出すなど、成果を上げている。今後は、全ての教育活動をキャリア教育の視点で整理し、1年次より組織的・系統的なキャリア教育を推進し、3年間でしっかりと職業観や勤労観を確立させ、生きる力を身につけさせることが課題である。</p> <p>○部活動 全国大会、東海大会等に出場し活躍している部活動もあるが、全体的に見ると部活動の成果が伸び悩んでいることから、学校全体で活性化に取り組む必要がある。</p> |
| | 学校運営等 | <p>○少人数コース制 「農業」「家庭」の専門性を高め、生徒のニーズにあった活性化を図ってきた。本校の最大の特徴である「少人数コース制」についてその成果と課題の検証を行い、効果を最大限生かすような教育内容、指導方法になっているか常に確認する必要がある。また、今後減少していく中学生に対して、学科（コース）の在り方を検討するなど、より魅力のある学習内容にしていく必要がある。</p> <p>○組織的な指導体制 個人の能力だけに頼らず「目指す学校像」実現のため、生徒指導や進路指導など組織的に指導する体制が整ってきている。今後、分掌や学科・コースを超えての連携やさらに教職員の力量を高めるためOJTを充実させる必要がある。</p> |

3 中長期的な重点目標

| | |
|-------|---|
| 教育活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら学ぼうとする意欲を高めるため、自らが課題を設定し解決する学習活動を推進する。 ・生徒の確かな学力の向上を図るため、すべての教員は積極的に授業改善を進め、「わかる授業」「興味を喚起する授業」を行う。 ・生徒の進路希望を実現するため、あらゆる教育活動をキャリア教育の視点で捉え、就職・進学だけでなく、その先の社会活動を見通した組織的な進路指導をすすめる。 |
| 学校運営等 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に提供する学習内容を充実し、学力向上につなげるため、プロジェクト学習やアクティブ・ラーニング等の主体的な学習活動の研究を行い、全教職員が連携して授業改善に努める。 ・教職員が意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、組織の目的を共有する場を設けるとともに、組織の業務内容を見直し、過重労働の削減等に取り組む。 ・不祥事等を絶対起こさないことで、より一層地域に信頼され必要とされる学校となるよう全教職員が日々実践していく。 |

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|-----------|---|---|----|
| 学習指導の充実 | <p>(1)生徒が主体となるような授業を実践する</p> <p>【活動指標】 わくわく農林塾を農業学科家庭学科各コース2回以上実施する。可能であれば3回以上実施する</p> <p>【成果指標】 生徒への事後アンケートにより自分の成長を感じたという回答 75%以上</p> <p>(2)生徒による授業評価を実施する</p> <p>【活動指標】 生徒へのアンケートにより授業満足度を把握</p> <p>【成果指標】 授業がわかりやすいという回答 70%以上</p> | <p>(1)わくわく農林塾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品コース6回 ・植物コース 10 回 ・動物コース2回 ・保全コース 2 回 ・ガーデニングコース 4 回 ・土木機械コース 2 回 ・生活デザイン科3回 ・成長を感じた生徒 80% <p>(2)授業満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年79% ・2年84% ・3年81% | |
| キャリア教育の充実 | <p>(1)進路ガイダンスを充実させる</p> <p>【活動指標】 3年生3回、1・2年生各2回</p> <p>【成果指標】 進路ガイダンスの生徒満足度85%以上</p> <p>(2)生徒が主体的に進路を選択し、実現させる力を養う</p> <p>【活動指標】 生徒の主体性の涵養に向けて、インターンシップや担任面談、進路ガイダンス等を活用するとともに、進路実現に繋がる、面接や履歴書等の指導を充実させる。</p> <p>【成果指標】 就職内定者数(率)年内95%以上</p> | <p>(1)進路ガイダンスは指標以上の実施ができ、学習習慣の定着、基礎学力の向上、進路選択、進路決定、内定後等に繋がる指導を行った。</p> <p>生徒満足度 95%</p> <p>(2)各クラス・各学科・コース単位で、インターンシップや現場見学会、出前授業、講演会面接や履歴書指導を実施、就職内定率(年内)95.4%</p> | |
| 生徒指導の充実 | <p>(1)服装・頭髪等の身だしなみを整える</p> <p>【活動指標】 頭髪・服装指導 年間8回実施</p> <p>【成果指標】 頭髪再指導が10%以内<年度最終></p> <p>(2)生徒に規則正しい生活習慣を身につけさせる</p> <p>【活動指標】 遅刻カウンター・遅刻カードの活用・生活習慣の改善を目的とした特別指導・生徒会主催の朝のあいさつ運動の実施</p> <p>【成果指標】 学校全体の遅刻の総数を 700 以下(全校生徒数以下)</p> | <p>(1)頭髪・服装指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年 8 回実施 ・頭髪再指導 4.9% <p>(2)生徒会の朝のあいさつ運動の定例化により、あいさつ意識は高まってきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻総数 714 件 ・生徒の進路希望の実現に向け、寄り添った指導により基本的な生活習慣の確立に務めた。 | |

| | | |
|---------------------|--|--|
| <p>保健管理の 充実</p> | <p>(1)健康管理を充実させる 【活動指標】 生徒自身が健康状態を把握し、健康の保持増進の意識を高める 【成果指標】 すべての検診について受診100%にする。</p> <p>(2)保健教育を充実する 【活動指標】 健康課題により、集団指導と個別指導を行い、さらには外部講師も活用する 【成果指標】 アンケートによる満足度80%以上</p> <p>(3)相談活動を充実させる 【活動指標】 保健室での相談活動を中心に行い、スクールカウンセラーや発達障がい支援員と連携する 【成果指標】 スクールカウンセラーによる相談を5時間×32回実施おこなう 発達障がい支援員を月6時間招聘する</p> <p>(4)命を大切にすることを育む教育活動を充実させる 【活動指標】 生徒向け研修会等を実施する 【成果指標】 学年別で各年間2回実施(計6回)</p> | <p>(1)すべての検診において、長期欠席者を除き、全員受診することができた。また要精密検査の中で最も重要な心臓検診、腎臓検診対象生徒については、専門機関への受診率が100%であった。健康診断結果報告の配付などで直接本人、保護者へ担任と連携して呼びかけたため、専門機関への受診率の向上につながり健康管理に対する意識付けができた。</p> <p>(2)年間1500件を超える来室状況より、生徒によっては個別指導をすること、また保健だよりを発行や集会で呼びかけることで保健教育を充実させた。保健部独自のアンケートは実施しなかったが、学校アンケートでは、保健室の対応に満足している生徒は多い。</p> <p>(3)保健室の健康相談とスクールカウンセラーや発達障がい支援員の活用により相談活動を充実できた。友人関係や家庭状況、学校生活など不安を抱えている生徒もいるため継続した支援をする必要がある。</p> <p>(4)各学年とも年2回性教育講話、年1回薬物乱用講座を行うことで保健指導を充実させた。生徒の90%は内容に満足しており、「授業で聞けないことを詳しく説明してもらってよかった」、「必要な知識なのでこれから役立てたい」などの感想が多数あった。</p> |
|---------------------|--|--|

改善課題

- 目標を持って学習や活動に取り組んでいると回答した生徒は、全体の78.4%で昨年の71.1%より上昇した。また2年生(66%→78%)・3年生(72%→77%)とも昨年度を上回り、成長の跡が見られる。将来の生き方にかかわる問題として、生徒が1年次から目的意識を持ち、その実現に向けて取り組むことができるようキャリア教育をさらに充実させる。
- 頭髪・服装、遅刻などの基本的な生活習慣については、大きな乱れもなく落ち着いてきているが、携帯電話使用のルール違反などマナーや規範意識に課題がある生徒もいる。引き続き、家庭との連携や進路指導の側面からも生徒にアプローチし、生徒自身に考えさせ、成長を促したい。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|-----------------|--|--|----|
| 資質向上の取組 | (1)教職員の各種研修会を実施し、指導力向上に努める 【活動指標】 各学期1回、参加率70%以上 【成果指標】 参加者の満足度80%以上 | (1)オフサイトミーティング(参加率50%)、救急救命法(参加率40%)、人権教育(参加率70%)コンプライアンス研修会(参加率90%)を実施、その他外部での研修会への参加を促した。 | ◎ |
| チームワークの向上・意欲の増進 | (1)分掌、学科、コース、学年間の連携、情報交換、情報共有に努める 【活動指標】 教職員アンケートにより職員の満足度を把握する 【成果指標】 学校経営への参画意欲ありという回答60%以上 | ・学校経営に参画していると思うと回答した職員 76.9%(昨年度65.1%) ・現在の仕事に満足していると回答した職員 56.0%(昨年度65.1%) 次年度も、オフサイトミーティング等を実施し、課題を洗い出し、共有するとともに、改善活動につなげていきたい。 | |
| 情報提供による信頼の構築 | (1)学校からの情報発信を積極的に行う。 【活動指標】 学校HPの充実(各コース・各部活動のニュースの充実) マスコミ等への活動情報の積極的な提供 【成果指標】 学校HPニュース70件以上、報道50件以上 (2)中学生が本校へ関心と理解をよりいっそう深めるため、学校PRポスターを関係中学校に配布する。 進路説明会や高校生活入門講座等により志願者数を増やす。 【活動指標】 ポスターを年間2枚以上配布する。 進路説明会中学校20校以上実施する 高校生活入門講座2回実施する。 【成果指標】 高校生活入門講座参加者数800名以上 前期選抜の志願倍率2.1倍以上、後期選抜1.1倍以上 | (1)HPニュース125件 食品コースと土木機械コースの投稿が多かった。学校行事も健闘した。 報道 新聞30件 テレビ約10件 (2)中学校向けポスター2枚・チラシの作成 夏の高校生活入門講座は希望者が昨年より150減で373名。 秋は台風で中止になったが、平日の放課後に代替。最初の希望者の3分の2の200名が参加。 前期選抜の志願倍率は1.98倍 | |

| | | | |
|---------------------|--|--|--|
| <p>保護者・地域との連携</p> | <p>(1)わくわく農林塾の実施</p> <p>【活動指標】 本校生徒や相手先へのアンケートにより満足度を把握する。</p> <p>【成果指標】 参加してよかったという回答80%以上</p> | <p>(1)参加して良かったと回答した生徒 農業学科 87% 生活デザイン科 95% 次年度も取り組みを継続・発展させていきたい。</p> | |
| <p>働きやすい職場環境づくり</p> | <p>(1)行事や取組の精選(スクラップ&ビルド)</p> <p>【活動指標】 教職員アンケートにより満足度を把握する。</p> <p>【成果指標】 取り組んでいるという回答70%以上</p> <p>(2)会議の回数削減や時間短縮</p> <p>【活動指標】 アンケートにより満足度を把握する。 全ての会議は原則として60分以内とする。</p> <p>【成果指標】 取り組んでいるという回答70%以上 全ての会議の80%が60分以内で終了</p> <p>(3)過重労働改善への取組</p> <p>【活動指標】 原則として、毎月第1第3月曜日をノー部活デーとする。各定期考査で1日(半日単位も可)以上の年休を取得する。 各定期考査中をノー残業デーとする。</p> <p>【成果指標】 過重労働80時間以上ののべ人数30%減 1人あたりの月平均時間外労働時間15%削減 年休取得日数、年間1人あたり2日増</p> | <p>(1)(2) 60分以内で終了した会議 47.8%(昨年度 35.3%) ・仕事量が多いと回答した職員 73.1%(昨年度67.4%) ・勤務時間の削減に取り組んでいると回答した職員 46.2% (昨年度 25.6%) 今後も職員一人ひとりが、総勤務時間の削減について意識的に取り組むことができるよう、環境整備をすすめた い。</p> <p>(3) ・過重労働80時間以上の延べ人数(1月末) 32人(昨年度60人) 47%減 ・1人あたりの月平均時間外労働時間 24.2 時間(昨年度 26.8 時間) 9.7%減 10 月からの機械警備の導入以降、過重労働時間が減少している。また過重労働時間80時間以上の延べ人数の削減目標を達することができた。さらなる削減に向け、業務内容の平準化、部活動顧問の負担軽減を進めるなど、より一層の改善が必要である。</p> | |

| | | | |
|-------------------|--|---|--|
| <p>信頼される学校づくり</p> | <p>(1) 毎週の朝の全校集会を利用した生徒および教職員への意識啓発</p> <p>【活動指標】</p> <p>校長または教頭が毎週の全校集会で生徒に様々な視点から講話を行う。</p> <p>さらに、分掌主任等教諭の講話も適宜行う。</p> <p>【成果指標】</p> <p>講話実施率100%</p> <p>(2) 職員との対話</p> <p>【活動指標】</p> <p>管理職が期首面談、期末面談だけではなく、様々な機会を通じて教職員との対話を行う。</p> <p>【成果指標】</p> <p>期首面談、期末面談を含めて教職員1人あたり平均5回以上実施する。</p> | <p>(1) 原則として毎週水曜日に全校集会を実施、管理職・分掌主任等が講話を行った。</p> <p>(2) 分掌・学年主任等にはこれまで平均して5回以上対話を実施している。ただし、一般教員に対しては期首面談期末面談のみの場合もある。</p> | |
|-------------------|--|---|--|

改善課題

- 教職員研修への参加率が低いことから、参加しやすい日時に実施する。
- 「私立高校授業料の実質無償化」の影響もあり、本校への志願者が減少した。生徒数急減期に向けて、さらなる特色化を進めるとともに、中学2年生・1年生に対しても情報発信を行い、志願者開拓を行う。
- 総勤務時間は縮減傾向にあるが、教職員の意識改革を図る必要がある。また多忙化の解消について、部活動顧問の負担軽減、特定の職員に業務が偏らないよう平準化を図るとともに業務の見直しを行う必要がある。

5 学校関係者評価

| | |
|----------------------------|---|
| <p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p> | <p>○ 学習指導の充実</p> <p>「生徒が主体となる授業の実践」に取り組んだ。実施回数を成果指標に掲げた「わくわく農林塾」は、予定を上回る回数の実施であった。この取り組みは、地域と学校が一体となり、久居農林高校の強みを活かし、地域の教育を担いつつ、生徒の主體的な学びを引き出し、学校の活性化にも資する優れた取り組みである。「わくわく農林塾」を通して「成長できた」と感じる生徒が75%以上という成果指標を掲げ実践したが、年度末の生徒アンケートでは、「80%」という良好な結果が得られた。</p> <p>本年度は、本校の授業に対して「授業が分かりやすい」と回答する生徒を70%以上とする目標を立てた。その結果、年度末アンケートでは、「授業満足度」が1年生79%、2年生84%、3年生81%と、高い数値を示した。こうした数値が良好なあったことは素晴らしいと高く評価できる。しかし、上記においても「成長できた」あるいは「授業が分かりやすい」と答えていない生徒が、少数であるが在る事実がある。これは、本校の教育を受けても成長が実感できなかったり、不満を感じたりした生徒がいるということである。このような生徒がどのような思いを持っているのか。どうすれば、改善できるのか。アンケート結果等を職員で共有し改善策を練る取り組みがなされているものの、より一層、「マイナス回答」の生徒の実態や思いに寄り添った教育実践を期待したい。</p> |
|----------------------------|---|

○ キャリア教育の充実

進路ガイダンスの充実に対して、年度当初は満足度 85%を目指す目標を掲げた。年度末のアンケートでは、生徒の満足度は 95%であった。目標を 10 ポイントも上回る結果が得られた。本校の進路指導において、すべての生徒の進路実現がなされたことは、何よりの成果だといえる。しかし、それにとどまるものではない。生徒が自身の人生行路を見つめ、主体的に進路選択ができるよう、キャリア教育が充実している点が素晴らしいといえる。具体的には、進路ガイダンスやインターンシップ、現場見学会、出前授業、講演会、面接・履歴書指導などの取組が充実している。本年度は、労働市場の人手不足の後押しがあるものの、就職希望生徒の多くを地元の有料企業に就職させることが出来た。卒業後も、職場定着をサポートするなど、きめ細かい指導がなされている。進学においても、多種の大学・短大・専門学校に生徒は進んでいった。次年度は景気動向が危ぶまれているが、取り組みを継続・発展することにより乗り切ってもらいたい。

○ 生徒指導の充実

生徒指導部が中心となり、規則正しい生活習慣の確立のため、生徒への身だしなみ指導や遅刻指導に力が注がれている。これは生活指導に留まらず、生徒一人一人の生きる力の涵養を図っている姿でもある。厳しく指導するだけではなく、教員が生徒にきめ細かい声掛けを行い、生徒は、ルールや時間を守ることが、自らの成長につながることを理解している。近隣の小学校・中学校の児童・生徒と比べても、「本校の高校生が一番気持ち良い挨拶ができる」という評価が聞かれた。これは、生徒会による「朝の挨拶運動」等の取り組みの成果であり、「声を掛け合う」という本校の実践によるところが大きいと考えられる。

次年度も、家庭との連携や進路指導の側面からも生徒を支援し、取り組みを継続してもらいたい。

○ 保健管理の充実

検診受診率 100%を達することができた。これは、保健部と生徒、保護者、担任の 4 者が緊密に連携し、健康への高い意識を共有することができたことの頭れだといってよい。

保健室には、年間 1500 件を超える来室がある。数が多いことは、生徒からの信頼が厚く、カウンセリングや発達障害支援、性教育などを充実させてきたことの頭れである。学校におけるセーフティー・ネットとしての重要な役割を担っている。次年度以降も、取り組みを継続してもらいたい。

○ 学校生活アンケート

学校生活アンケートでは、上級学年ほど「安心」「目標をもった学習・活動」「総合満足度」が高くなる傾向が見られる。好ましいことである。

○ 学校運営

教員の資質向上のための研修会が充実し、分掌や学年がチームワークを持った連携が行われている。新聞報道される取り組みも多々あり、ホームページも充実し、情報発信に努めている。久居農林高校を志願する中学校生徒数は、概ね良好である。地域からの評価が定着している。教育の充実と進路の実績が高く評価されていると考えられる。しかし、本校に限らず、教育内容を充実させることがすぐさま志望倍率の増加には繋がりにくい現状がみられる。生徒が急減する近い将来に向けて、具体的な対策を講じていく必要がある。慢性的な過重労働が問題となっていたが、本年度の機械警備の導入を契機として、改善傾向がみられた。しかし、特定の教職員に偏った過重労働傾向も見受けられ、そうした教職員に対して、多忙化を解消する取り組みが必要である。

6 次年度に向けた改善策

| | |
|--------------|--|
| 教育活動についての改善策 | <ul style="list-style-type: none">○「授業がわかる」「成長できた」と回答しなかった生徒の基礎学力の向上・成長に向けて、具体的にどう取り組むかを検討する。○景気減速が予測される中、生徒の進路実現を図るため、系統的・組織的にキャリア教育をすすめる。 |
| 学校運営についての改善策 | <ul style="list-style-type: none">○生徒急減期に向けて、「わくわく農林塾」などさらなる特色化を進めるとともに、中学生が本校の教育内容について、より理解を深めることができるよう情報発信に力をいれる。また中学生を対象にした学校説明会を充実させる。○日頃から教職員が意識的に総勤務時間の縮減に取り組むとともに、教職員の負担軽減を図るなど業務の平準化について検討する。 |